

看護・保健部門

受賞者： えとう のぶこ 江藤 信子 (91歳)

江藤助産所 所長



1944年大分県立病院看護婦養成所に入学、1945年防空本部の伝令係の夜に大分空襲を体験した。戦中戦後にかけて外科・皮膚科看護師として負傷した兵士を看護し、1948年大分県立病院産婆看護婦養成所に入学、1950年に出張型の助産所を開業。以来69年にわたり5世代にもわたる母子とその家族に関わり、現在も地域に根ざした助産師業務を続けている。

開業から39年間は地域の産婦人科医師と協働し、信頼関係の中、安心安全な自宅分娩に携わってきた。助産所のある津久見市は半島が広がっており、当初の交通手段は自転車で、晴雨にかかわらず峠を越し、家庭訪問を行った。また江藤氏の活動は単に助産業務だけでなく、母親が安心して子育てができるよう各々の家庭の状況に応じ妊産婦の生活全般にわたり支援をしてきた。現在もその姿勢が変わることはなく、沐浴や乳房ケア、保健指導や産着作りなどを通して、若い母親や時には姑の心に寄り添った活動をし、地域に信頼される助産師として多くの人から慕われている。

90歳を超えてなお、毎年開催される助産師会の全国や地区総会、研修会、学会、地域の学習会などに意欲的に参加し、生涯現役、生涯勉強の姿勢を貫き、母子のために自分にできることを全うしたいと活動を続けている。

推薦者： 山本 詩子 公益社団法人日本助産師会 会長